

アルツハイマー型認知症のお薬について

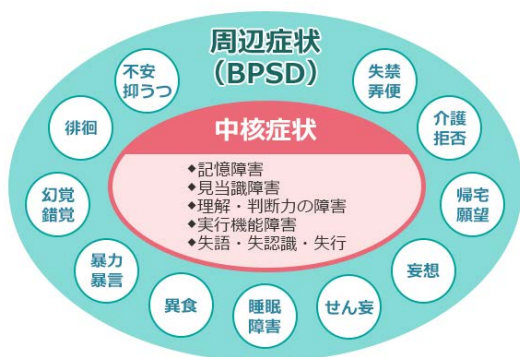
誰でも年齢とともに、もの覚えがわるくなったり、人の名前が思い出せなくなったりします。こうした「もの忘れ」は脳の老化によるものです。しかし、認知症は「老化によるもの忘れ」とは違います。認知症は、何らかの病気によって脳の神経細胞が壊れるために起こる症状や状態をいいます。そして認知症が進行すると、だんだんと理解する力や判断する力がなくなって、社会生活や日常生活に支障が出てくるようになります。

認知症は、高齢化が進むにつれ、急激に増加しています。認知症のうち、およそ半数はアルツハイマー型認知症です。今回は、認知症を起こす病気の中でいちばん患者さんが多いと言われている、アルツハイマー型認知症についてお話ししたいと思います。

○アルツハイマー型認知症とは？

アルツハイマー型認知症は、老年期によく起こり、65歳以上の有病率は、1～3%です。脳に特殊なたんぱく質が溜まり、神経細胞が壊れて減っていくために、認知機能に障害が起こると考えられています。また徐々に脳全体も委縮していき身体の機能も失われていきます。アルツハイマー型認知症は、いつのまにか始まり、緩やかに進行していくのが特徴です。

○症状は？



アルツハイマー型認知症の症状は、中核症状と周辺症状の大きく二つに分けられます。中核症状は、脳の障害により直接起こる症状で、記憶障害・判断力低下などが挙げられます。周辺症状は、中核症状に伴って引き起こされる症状で、不安、幻覚、徘徊などが挙げられます。



○治療薬は？（院内採用薬）

●コリンエステラーゼ阻害薬

（アリセプトD[®]錠、レミニールOD[®]錠、イクセロン[®]パッチ）

⇒アルツハイマー型認知症では神経伝達物質の1つであるアセチルコリンが脳内において減少していることが知られています。脳内にはアセチルコリンを分解する役割を持つ酵素があり、これらの薬はこの酵素の作用を阻害することで、脳内でのアセチルコリンの濃度を高め神経伝達を助けます。

●N-メチル-アスパラギン酸（NMDA）受容体拮抗薬

（メモリーOD[®]錠）

⇒グルタミン酸は脳内において記憶や学習に関わる神経伝達物質という役割がありますが、認知症患者の脳内では異常なタンパク質によってグルタミン酸が過剰な状態となってきます。グルタミン酸の量が正常であれば記憶できることが、過剰な状態となることで記憶のシグナルが妨害され記憶することが困難になってしまうという考え方です。メモリーOD[®]錠には、過剰なグルタミン酸の放出を抑え、結果的に脳神経細胞が壊れてしまうのを防ぐ働きがあります。

以上、4製剤について簡単に説明しましたが、コリン作用を増強させるコリンエステラーゼ阻害薬3剤は、総じて「患者を活発化させる薬」である一方、NMDA受容体の過活動を抑えるメモリーOD[®]錠は「感情を安定化させる薬」と言えますので併用投与が意味のあるものになってきます。

また、軽度から中等度の認知症には薬物療法の有無によらず、脳を活性化させるようなリハビリや適切なケアも重要です。治療介入の標的とされるのは認知・刺激・行動・感情の4つで、用いられる手法は心理学的なもの・認知訓練・運動や音楽など芸術的なものに大別されます。

※周辺症状（BPSD）に対しては、まず、環境調整や介護者の対応等の非薬物療法でできるだけBPSDを軽減するというところを行います。その上で、もしそれが十分な効果を上げないという場合に、症状に応じた薬物療法（抗精神病薬・抗うつ薬・抗不安薬・睡眠導入剤等）を行うとされています。

アルツハイマー型認知症になる原因ははっきり解明出来ていませんが、生活習慣を見直すことで、予防につながるとされています。そしてなにより、早期発見・早期治療がとても重要です。～お薬のことでご不明な点やご不安な点がある場合には、医師又は薬剤師までご相談ください。～

